

# 琉球大学学術リポジトリ

## 青少年の規範意識の測定に関する研究 — 年齢・性別比較 —

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学法文学部 公開日: 2008-10-21 キーワード (Ja): 規範意識, 問題行動の許容性, 青少年 キーワード (En): 作成者: 田中, 寛二, Tanaka, Kanji メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/7569">http://hdl.handle.net/20.500.12000/7569</a>

# 青少年の規範意識の測定に関する研究 －年齢・性別比較－

A study on measuring a degree of norm-consciousness  
within youth.

田 中 寛 二  
Kanji Tanaka

## 要 約

問題行動への許容性という視点から青少年の規範意識を測定するための尺度を作成し、その尺度によって測定された内容の分析をとおして、青少年の規範意識の内容を明らかにすることが本研究の主な目的であった。また、中学生と高校生の年齢の違いによって、その内容が異なるのかも検討された。沖縄県の中学生・高校生合計397人を調査対象者とした調査の結果、概して、高校生の規範意識の方が中学生の規範意識よりも曖昧であり、また問題行動の許容性も高校生の方が高いことが明らかになった。このような結果は各年齢層の青少年の生活空間から検討された。

キーワード：規範意識，問題行動の許容性，青少年

## 1. 背景と問題

犯罪白書などの各種の統計資料において、非行の発生（検挙）件数は、一時は年々減少していたが、近年再度増加傾向にあることが報告されている。また、中学生による凶悪犯罪や一般には理解しがたい理由による犯罪などが急増しているようにも言われている。小林（1998）は、近年の非行少年の特

徴を「行動面・表現形等の特徴」と「資質・内面等についての特徴」に分けて分析的に述べている。行動面・表現形等の特徴として、①凶悪・粗暴化（とりわけ中学生）、②いきなり型、③覚醒剤の増加、④暴走族の凶悪化、⑤学生・生徒の割合の増加、⑥保護者の経済状態が「中」以上の割合の増加、を挙げている。また、資質・内面等については、①衝動性・短絡性、②「個」の感覚の希薄さ、③価値の崩壊を挙げている。

このように数年前とは量的にも質的にも異なっていることから、わが国戦後第4のピークが到来しつつあるのではないと言われるようになった。第4のピークの到来したかどうかには議論の中心をおくよりは、むしろこれまでの枠組みでは完全には理解できないタイプの非行行為あるいは非行少年が増加してきたということを重視しなければならない。上記の「いきなり型」というのは、過去に非行歴のない少年が突発的に非行を行い、衝動性・短絡性とはいわゆる「キレル」少年たちのことを示している。場の状況や文脈にはそぐわない激しい攻撃的な行動に至る少年たちをどのように理解すべきなのだろうか。これまでとは質的に異なっているのであれば、これまでの非行少年の捉え方のみでは十分には理解できない可能性が高いと考えられ、そのためにも現代の青少年がどのような意識を持っているのかを明らかにするための研究を行う必要性が高いと考えられる。

少年法によれば、非行とは少年（20歳未満の者）による犯罪行為、刑罰法令に触れる行為、及びぐ犯行為に分類されている。例えば、放火、殺人、傷害、強姦、窃盗、シンナーや覚せい剤の乱用などは犯罪行為及び刑罰法令に触れる行為である。一方、暴力団構成員との交際や常習的な家出などは、犯罪行為には該当しないが、少年法では将来罪を犯すおそれがある行為と規定している。

ところで、このような非行は、どのような機制によって発現するのであろうか。人間誰しも罪を犯す可能性を有している。例えば、厳密に言えば、道路交通法に違反したことのない人は一人もいないと言っても過言ではあるま

い。そのことだけをとってみても明白のように、ある種の犯罪には全ての人間がいつ犯しても不思議ではないものがある。しかし、それが殺人や窃盗などのように、極めて悪質で意識的に行わなければならない場合の犯罪行為は別格である。

非行や犯罪にいたり易さを示す指標のひとつに従来から規範意識という概念を用いてきた。安香（1990）によれば、「規範を『当為としての道徳的価値』を意味するものとした上で、規範についての認識と感情をまとめて『規範意識』と呼ぶ」としている。このような規範意識についての定義（特に操作的な定義）は、研究者によって様々である。

そのような規範意識の測定に関して様々な尺度が作成されている。例えば、久世・和田・鄭・浅野・後藤・二宮・宮沢・宗方・内山・平石・大野（1988）は規範意識と私生活主義を測定するための尺度を作成しているが、その中で規範意識を測定するために11の項目が準備されている。一方、長谷川（1988）は青年の問題行動傾向の構造を明らかにするために、90もの項目を作成している。しかしながら、それらの中には、「スポーツが苦手だった」など問題行動とは直接関わりがないと考えられる項目も含まれており、使用目的によっては再度検討を要する項目が含まれている。また、T-K式DEL尺度は非行性を測定するための尺度であるが、項目はかなり直接的な非行内容を扱っている。このように、直接的な非行行動に対する質問が含まれるような尺度では、いわゆる「社会的望ましさ」が働いて、回答が歪曲してしまう可能性が高い。加えて、上述のように現代の青少年の非行がこれまでの枠組みでは理解し難い面を備えているならば、そのような面を明らかにするための尺度を準備する必要があると考えられる。そこで、本研究では、青少年の規範意識を測定する尺度を作成する。

ところで、規範意識という場合、これまでの尺度では、上述のように、ある行為に対する抵抗感を尋ねる方法を採用しているものが多いように思われる。長谷川は大学生に対して「高校3年間の自分に該当するかどうかで答え

て下さい」という教示の下で、例えば「時々酒を飲んだ」の質問項目に対して、「あてはまらない」～「あてはまる」までの5段階評定を求めている。

このような直接的な質問の仕方に、より広範囲で青少年の規範意識を測定するために問題行動に対する許容の程度を確認することに加えることによってより包括的な質問項目群が考案できると思われる。様々な年齢層の人々の行う問題行動に対してどの程度許容性があるかという尋ね方が、間接的な質問方法であることにより、防衛機制も働きにくく、青少年の規範に対する意識をより総合的に測定することができると考えられる。

そこで、本研究では、規範意識と中学生及び高校生が行う問題行動の許容性を明らかにするための尺度を作成し、それらの関連を明らかにすることととして沖縄県の中学生及び高校生の規範意識を明らかにすることを主な目的とする。

## 2. 方法

### 1) 調査対象者

調査対象者は、沖縄県内の中学生1年生146人（男子68人、女子78人）及び高校生1年生251人（男子99人、女子152人）であった。

### 2) 調査尺度

予備調査として大学生30人を対象にして「青少年が行ってはいけないと思うこと」について自由記述を求めた。その結果、「時間を守らない」「約束を破る」「嘘をつく」「秘密をもらす」など7項目が記述された。それらの項目に加え、長谷川（1998）の「問題傾向尺度」、東（1990）の「道徳秩序尺度」、久世（1987）の規範尺度、大城（1997）の「中学生の規範意識」において使用されている尺度を参考にして、規範意識尺度として39項目を、問題行動に対する許容性の尺度として29項目を作成した（付表1及び付表2参照）。

それぞれの尺度は、規範意識については、「してはならない」から「してもよい」までの5段階尺度によって、問題行動に対する許容性については

「絶対にしてはいけない」「からしてもよい」までの4段階尺度によって評定を求めた。

その他に、性別、年齢などのデモグラフィック項目が尋ねられた。

以上をA4版白紙に印刷し、小冊子にまとめたものが準備された。

### 3) 手続き

調査は中学校及び高等学校においてショートホームルームの時間を利用してクラス単位で、それぞれの担任教諭によって行われた。担任教諭は調査の主旨、回答の仕方及び注意点などについて事前に説明を受けて、理解していた。

規範意識については「各項目についてあなたはどの程度してはいけないと思うかを回答して下さい」、問題行動への許容の程度については「中学生（あるいは高校生）がそれをした場合、どの程度してはいけないと思うかを回答して下さい」という内容の説明が記載されていた。許容性の質問項目は、高校生がそれをした場合と中学生がそれをした場合にそれぞれ回答を求めた。

回答は調査対象者自身のペースで行うように求められた。所要時間は、個人差はあるものの約20分であった。

### 4) 分析

分析は、各々の項目について、群別、性別に算出された平均評定値の比較（二元配置分散分析）が行われた。また、規範意識及び問題行動への許容性に関する尺度をそれぞれ因子分析を実施し、因子ごとの得点を算出した。それらの得点の比較（二元配置分散分析）や相関係数の算出が行われた。これらの分析にはSPSS（ver.9.0J）が用いられた。

## 3. 結果と考察

### 1) 各項目の平均評定値

各項目の平均評定値を群別、性別にまとめ、付表1～付表3に示した。また、それらの付表には、群（中学生、高校生）×性の二元配置分散分析の結

果のみを記載した。

### ①規範意識

規範意識を測定するための各項目の平均評定値を、群（中学生、高校生）及び性別に算出し、二元配置分散分析を実施した。付表1はその結果を示す。得点は1～5点の間で分布しており、高いほど当該項の内容の行為に対して否定的であることを示す。平均得点が4点台を示した項目は、かなり強く「行ってはいけない」という認識を持っている項目と考えることができる。シンナーを吸引すること、麻薬・覚醒剤を使用すること、無免許で車に乗ること、暴力を振るうこと、憎い人の命を奪うことなどの多くの項目で当該項目に示された内容の行為にかなり強く否定的であることが示唆された（付表1参照）。

群別あるいは性別にそれらの認識に違いがあるかどうかを確認するために分散分析を行った。付表の一部に、その結果のみを示した。群により認識の程度に有意な差の認められた代表的な項目は「タバコを吸う」「酒を飲む」「不特定多数の人と性交渉をもつ」「授業中に居眠りをする」「ポルノ雑誌やビデオを見る」などの項目である。基本的には高校生よりも中学生の方が規範に対して自分は行ってはいけない行為としての認識が強い。

男女間で有意な差の認められた項目は、「麻薬・覚醒剤を使用する」「無断外泊をする」「ピアスをする」「道路に唾を吐く」「信号無視をする」などは女性の方が男性よりもより行ってはいけない行為と認知している。また、「友達に嘘をつく」「ポルノ雑誌をみる」「憎い人の命を奪う」等の項目は、逆に男性の方が女性よりもより強く行ってはいけない行為として認識していることが示された。

### ②中学生の行う問題行動に対する許容性尺度

同様に、中学生の行う問題行動に対する許容性の平均評定値を群（中学生、高校生）×性の二元配置分散分析によって比較した（付表2参照）。この許容性の得点は高いほど、当該問題行動に対して許容的であることを示唆して

いる。その結果、「喫煙」「飲酒」「午後10時までの夜遊び」「ポルノ雑誌やビデオを見ること」「ピアスをすること」「髪を染めること」等を中学生が行うことに対して、中学生よりも高校生の方がより許容的であることが示された。また、「不特定多数の人との性交渉」「援助交際」「売春（買春）」「ポルノ雑誌やビデオを見る」などは男子の方が許容的であり、「ピアスをする」「髪を染める」などは女子の方が男子よりもより許容的であることが示された。

### ③高校生の行う問題行動に対する許容性尺度

同様の分析を行った（付表3参照）。群間の比較によると、高校生の「喫煙」「飲酒」「夜遊び」「恋人との性交渉」「ポルノ雑誌やビデオを見ること」「ナイフを持ち歩くこと」など多くの項目において、中学生よりも高校生の方がより許容的であることが示された。また、高校生の「不特定多数の人との性交渉」「援助交際」「売春（買春）」「ポルノ雑誌やビデオを見ること」について、女子よりも男子の方がより許容的であることが示された。他方、高校生の「ピアスをする」「髪を染める」については、男子よりも女子の方がより許容的であることが示された。

## 2) 規範意識の因子分析及び因子得点の比較

### ①因子分析

全39項目の評定値を用いて、中学生、高校生別に因子分析を実施した。因子分析は主因子法を採用し4因子を抽出し、バリマックス法により直交回転を行った。その結果、中学生及び高校生で因子の構造にはさほど大きな変化は認められなかった。ここでは、より安定性の高かったので高校生の評定値を用いた因子分析を採用することにした。その因子分析の結果算出された回転後の因子負荷量を表1に示す。

表1に示したとおり、第1因子は、「タバコを吸う」「夜遊び」「家出の飲酒」などの12項目から構成されており、「不良行為」と命名する。第2因子は、「親に嘘をつく」「友達に嘘をつく」「約束を破る」などの9項目から構成されており、「信頼破棄行為」と命名する。第3因子は「無免許でバイク



表 1. 規範意識の因子分析の結果

	因子負荷量			
	I	II	III	IV
3 タバコを吸う	0.47			
6 夜遊びをする	0.64			
7 家で酒を飲む	0.68			
8 居酒屋で酒を飲む	0.61			
9 無断外泊をする	0.46			
10 ビアスをする	0.80			
11 髪を染める	0.80			
13 恋人と性交渉をもつ	0.69			
28 授業中に居眠りをする	0.43			
33 授業や集まりに無断欠席する	0.41			
35 ボルノ雑誌をみる	0.67			
36 未婚で妊娠をする	0.53			
17 親に嘘をつく		0.43		
18 友達に嘘をつく		0.59		
20 友達に暴力を振るう		0.50		
21 時間を守らない		0.60		
22 約束を破る		0.69		
29 カンニングをする		0.51		
30 信号を無視する		0.51		
31 秘密をもらす		0.62		
34 伝統や習慣を無視する		0.44		
15 無免許でバイクに乗る			0.68	
16 無免許で車に乗る			0.68	
23 公共の乗物や建物に落書きをする			0.43	
24 道につばをはく			0.46	
25 暴走行為をする			0.57	
26 タバコ・空き缶のぼい捨て			0.53	
27 授業中におしゃべりをする			0.48	
37 他人の自転車を無断で使う			0.40	
1 シンナーを吸う				0.65
2 麻薬・覚醒剤を使用する				0.76
12 不特定多数の人と性交渉をもつ				0.38
38 自殺をする				0.52
39 憎い人命を奪う				0.46
固有値	10.98	2.39	1.48	1.05
寄与率	32.29	7.04	4.34	3.10
累積寄与率	32.29	39.33	43.67	46.77

に乗る」「無免許で車に乗る」「道に唾を吐く」など8項目から構成されており、「不道徳行為」と命名する。さらに、第4因子は、「シンナーを吸う」「麻薬・覚醒剤を使用する」「不特定の人と性交渉をする」「自殺をする」などから構成されていることから、「身体軽視行為」と命名する。

## ②因子得点の比較

それぞれの因子を構成する項目の合計評定値を因子ごとに群別及び性別に算出し、群（中学生，高校生）×性別の二元配置分散分析を行った結果を表2に示す。第1因子（「不良行為」）は、群の主効果が有意であり、中学生の方が有意に得点が高いことが認められた。また、交互作用も有意な傾向が認められ、中学生では男子の方が得点が高いが、高校生では女子の方が高い傾向が認められた。

第2因子（「信頼破棄行為」）は、分散分析の結果いずれも有意ではなかった。

第3因子（「不道徳行為」）については、群の主効果と、性の主効果の傾向が認められた。すなわち、中学生の方がより得点が高い傾向が高く、女子の方が男子よりも有意に得点が高い傾向にあることが示された。また、交互作用も有意な傾向が認められ、中学生における性差よりも高校生における性差が大きく、高校生の女子の得点が最も高い傾向が示された。

第4因子（「身体軽視行為」）では、群の主効果に有意な傾向、性の有意な主効果、及び交互作用に有意な傾向が認められた。すなわち、中学生の方が高校生よりも得点が高い傾向があり、男子よりも女子の方が有意に得点が高く、さらに、中学生における性差よりも高校生における性差の方がより大きいという傾向が認められた。

## 3) 問題行動への許容性尺度の因子分析及び因子得点の比較

### ①因子分析

29の問題行動への許容性項目に対する評定値を、中学生の行う問題行動、高校生の行う問題行動及び中学生による評定、高校生による評定のそれぞれ

表 2. 各因子の群及び性別平均得点

					主効果	交互作用
		男子	女子	計	群	性
第 1 因子	中学生	43.80 (13.16)	41.96 (11.23)	42.82 (12.17)	P<.001	N.S.
	高校生	31.21 (9.11)	33.39 (8.52)	32.52 (8.80)		
	計	36.19 (12.48)	36.19 (10.29)	36.19 (11.26)		
第 2 因子	中学生	35.38 (7.53)	36.62 (6.88)	36.05 (7.19)	N.S.	N.S.
	高校生	34.82 (5.67)	35.72 (4.90)	35.36 (5.23)		
	計	35.04 (6.47)	36.03 (5.66)	35.61 (6.02)		
第 3 因子	中学生	33.31 (6.34)	33.35 (6.03)	33.33 (6.15)	P<.01	P<.10
	高校生	30.59 (5.94)	32.89 (4.93)	31.98 (5.46)		
	計	31.70 (6.23)	33.05 (5.32)	32.48 (5.75)		
第 4 因子	中学生	22.38 (3.88)	22.97 (2.81)	22.7 (3.35)	P<.10	P<.001
	高校生	21.24 (3.40)	23.00 (2.57)	22.31 (3.04)		
	計	21.71 (3.63)	22.99 (2.65)	22.45 (3.16)		

※数値下段( )内は S D, 右 3 列は二元配置分散分析の結果を示す。

の 4 種類の評定値を用いて、それぞれ因子分析を実施した。因子分析は、主因子法を採用し、先ず 5 因子を抽出し、バリマックス法によって直交回転を行った。因子構造は多少の差異は認められたものの、ほぼ同様であった。中でも高校生の行う問題行動への高校生による評定が最も安定していると考えられたので、その結果に基づいて、以下の分析を行う。なお、高校生の行う問題行動への高校生による評定値を用いた因子分析の結果（因子負荷量）を、表 3 に示す。因子負荷量が 0.35 以上が求められた項目をその因子を構成する

表 3. 高校生の行う問題行動への高校生による許容度の因子分析の結果

	I	II	III	IV	V
5 友人との居酒屋での飲酒	0.54				
7 午後7時から10時までの夜遊び	0.49				
8 午後10時から午前0時までの夜遊び	0.69				
9 午前0時以降の夜遊び	0.78				
10 オートバイ（原付自転車も含む）の無免許運転	0.70				
11 自動車の無免許運転	0.65				
12 無断外泊	0.63				
13 学校をさぼって遊ぶ	0.55				
20 悪口をいっていじめること		0.68			
21 無視していじめること		0.79			
22 金銭せびりをしていじめること		0.82			
23 暴力を振るっていじめること		0.77			
28 家出をすること		0.37			
29 ナイフを持ち歩くこと		0.40			
14 シンナーを吸うこと			0.54		
15 麻薬・覚醒剤の使用			0.57		
17 不特定多数の人との性交渉			0.57		
18 援助交際			0.72		
19 売春（買春）			0.82		
16 恋人との性交渉				0.53	
24 ボルノ雑誌をみること				0.85	
25 ボルノビデオを見ること				0.83	
26 ヒアスをすること				0.47	
27 髪を染めること				0.46	
1 喫煙					0.42
2 親や親戚との家での飲酒					0.83
3 親や親戚との居酒屋での飲酒					0.67
4 友人との家での飲酒					0.59
6 ひとりでの飲酒					0.53
固有値	8.89	3.38	1.48	1.34	0.94
寄与率	30.61	11.64	5.11	4.61	3.26
累積寄与率	30.61	42.25	47.36	51.97	55.23

項目と考えることにする。

その結果、第1因子は、「友達との居酒屋での飲酒」「午後7時から10時までの夜遊び」「無断外泊」「学校をさぼって遊ぶ」などから構成されていることが認められた。それらのことから、この因子を、「交友的問題行動」と命名する。

第2因子は、「悪口をいっていじめること」「無視していじめること」「金銭せびりをしていじめること」「ナイフを持ち歩くこと」などの6項目から

構成されていることから、「攻撃的問題行動」と命名する。

第3因子は、「シンナーを吸うこと」「麻薬・覚醒剤の使用」「援助交際」など5項目から構成されている。そのために、「快楽追求的問題行動」と命名する。

第4因子は、「恋人との性交渉」「ポルノ雑誌をみること」など5項目から構成されており、「大人志向的問題行動」と命名する。

第5因子は、「喫煙」「親や親戚との家での飲酒」など5項目から構成されていることから、「享樂的問題行動」と命名することにする。

## ②因子得点の比較

問題行動許容性尺度第1因子（「交友的問題行動」）について、当該問題行動を行う対象（中学生、高校生）、群（評定者：中学生、高校生）及び性別に平均得点を示したのが表4である。それらの得点を、対象（中学生、高校生）×群（中学生、高校生）×性の三元配置分散分析を行ったところ、対象の主効果が0.1%水準で有意であった。また、群の主効果についても1%水準で有意であることが認められた。すなわち、中学生が行う行為よりも高校生が行う行為の方がより許容的であり、また、中学生より高校生の方がより許

表4. 問題行動許容性尺度第1因子の得点

評定対象	評定者	男子	女子	計	主効果	交互作用
中学生	中学生	13.91 (5.93)	13.73 (5.51)	13.82 (5.69)	対象：中学＜高校 ( $P<.001$ ) 評定者群：中学＜高校 ( $P<.01$ )	
		15.95 (5.57)	14.59 (5.52)	15.12 (5.57)		
	高校生	15.12 (5.79)	14.31 (5.52)	14.65 (5.64)		
高校生	中学生	18.23 (7.20)	18.37 (6.81)	18.3 (6.97)		
		21.17 (5.43)	19.69 (5.98)	20.27 (5.80)		
	高校生	19.98 (6.35)	19.26 (6.28)	19.56 (6.31)		

※数値下段( )内はSD、右2列は三元配置分散分析の結果を示す。

表 5. 問題行動許容性尺度第 2 因子の得点

評定対象	評定者	男子	女子	計	主効果	交互作用
中学生	中学生	8.68 (3.63)	8.27 (2.75)	8.46 (3.19)	対象：中学<高校 (P<.001)	対象×評定者群 (P<.05)
	高校生	9.09 (3.41)	7.90 (2.49)	8.38 (2.94)		
	計	8.93 (3.49)	8.02 (2.58)	8.41 (3.03)	評定者性：男>女 (P<.05)	
高校生	中学生	9.15 (3.54)	8.89 (3.21)	9.01 (3.26)		
	高校生	9.35 (3.52)	8.14 (2.53)	8.63 (3.02)		
	計	9.27 (3.52)	8.39 (2.79)	8.77 (3.15)		

※数値下段( )内は S D, 右 2 列は三元配置分散分析の結果を示す。

表 6. 問題行動許容性尺度第 3 因子の得点

評定対象	評定者	男子	女子	計	主効果	交互作用
中学生	中学生	6.82 (3.28)	6.24 (2.44)	6.51 (2.87)	対象：中学<高校 (P<.001)	対象×評定者性 (P<.10)
	高校生	7.22 (2.97)	5.92 (2.06)	6.44 (2.54)		
	計	7.06 (3.09)	6.03 (2.20)	6.46 (2.66)	評定者性：男>女 (P<.001)	
高校生	中学生	7.71 (3.74)	7.05 (3.13)	7.36 (3.43)		
	高校生	8.10 (3.00)	6.28 (2.50)	7.00 (2.85)		
	計	7.95 (3.31)	6.54 (2.74)	7.13 (3.07)		

※数値下段( )内は S D, 右 2 列は三元配置分散分析の結果を示す。

容的に問題校を捉えていることが示された。

問題行動許容性尺度第 2 因子(「攻撃的問題行動」)についても、同様の分析を行ったところ、対象及び性の主効果がそれぞれ、0.1%、0.5%水準で認められ、対象×群の交互作用も、5%水準で有意であった(表 5 参照)。すなわち、第 2 因子について、高校生が行う問題行動に対してより許容的であり、

男子の方がより許容的に捉えており、さらに高校生の行う問題行動に対して、中学生の許容度が高いことが認められた。

第3因子（「快楽追求的問題行動」）についても第2因子と同様に、対象の主効果と性の主効果がいずれも0.1%水準で有意であることが示された（表6参照）。対象の主効果及び性の主効果がいずれも0.1%水準で有意であった。同時に、対象×性の交互作用が有意な傾向が認められた。この結果から、中学生が行う快楽追求的問題行動よりも高校生の行う快楽追求的問題行動に対する許容性が高く、また、男性の方が女性よりもそのような問題行動に対する許容性が高いことが示された。さらに、交互作用が有意な傾向にあることから、中学生が行うよりは高校生の行う快楽追求的問題行動の強制的男女差の方が大きいことを示しており、特に高校生の行う快楽追求的問題行動に対する男子の許容性が最も高いことを示している。

表7は、第4因子（「大人志向的問題行動」）の因子得点を示している。分散分析の結果、対象の主効果、群の主効果がそれぞれ0.1%水準で有意であった。また、群×性の交互作用も5%水準で有意であった。このことは、大人志向的問題行動については、中学生が行う場合より高校生が行う場合の方が

表7. 問題行動許容性尺度第4因子の得点

評定対象	評定者	男子	女子	計	主効果	交互作用
中学生	中学生	11.37 (5.06)	12.28 (4.78)	11.85 (4.91)	対象：中学＜高校 ( $P<.001$ )	評定者群×性 ( $P<.05$ )
	高校生	15.09 (4.06)	13.73 (4.03)	14.26 (4.09)		
	計	13.58 (4.84)	13.24 (4.34)	13.39 (4.55)	評定者群：中学＜高校 ( $P<.001$ )	
高校生	中学生	13.83 (5.50)	14.87 (4.55)	14.38 (5.03)		
	高校生	17.38 (3.26)	16.78 (3.05)	17.02 (3.14)		
	計	15.94 (4.64)	16.14 (3.72)	16.06 (4.13)		

※数値下段( )内はS D、右2列は三元配置分散分析の結果を示す。

より許容的であり、また中学生よりは高校生においてより許容的であることを示している。さらに、高校生男子においてそのような問題行動に対する問題行動への許容性は高いことを示している。

表8には、第5因子（「享樂的問題行動」）についての因子得点と分散分析の結果を示したものである。その結果、対象の主効果と群の主効果が認められ、対象×群の交互作用がいずれも0.1%水準で有意であることが認められた。中学生が行うよりも高校生が行う享樂的問題行動に許容的であり、高校生でそのような許容的な認識は強いことが示された。また、高校生が行う享樂的問題行動に対して高校生の許容性が最も高いことが示された。

表8．問題行動許容性尺度第5因子の得点

評定対象	評定者	男子	女子	計	主効果	交互作用
中学生	中学生	8.42 (4.27)	9.08 (4.09)	8.78 (4.17)	対象：中学＜高校 (P<.001)	対象×評定者群 (P<.001)
	高校生	11.21 (4.29)	10.15 (4.08)	10.57 (4.19)		
	計	10.09 (4.48)	9.78 (4.11)	9.91 (4.26)		
	高校生	中学生	10.92 (5.07)	11.74 (4.62)	11.37 (4.83)	
	高校生	14.77 (3.90)	13.93 (3.84)	14.26 (3.88)		
	計	13.23 (4.78)	13.18 (4.24)	13.20 (4.47)		

※数値下段( )内はSD、右2列は三元配置分散分析の結果を示す。

#### 4) 規範意識と問題行動許容性尺度の相関

付表4～12には、規範意識と問題行動許容性尺度の相関値を示している。ほとんどの場合、有意な負の相関値が示された。ただし、高校生男子の場合のみ規範意識第2因子と中学生の行う問題行動許容性の第3因子、第4因子、第5因子、規範意識第3因子と中学生の行う問題行動許容性の第3因子、第4因子には有意な相関値は認められなかった。このことから、他の群と比



較して高校生の男子においては、規範意識がやや曖昧な状態にあるのではないかと推測できる。

#### 5) まとめ

以上の結果から、例外はあるものの、概して中学生の方が高校生よりも規範意識も高く、許容性も低いことが示されたと言えよう。そのことは、年齢的に思春期にある中学生は、その特徴である潔癖的傾向の高さによっているかもしれない。他方、高校生は、中学生よりは広い生活空間の中で、既に様々な行為を体験したことが、規範意識を低下させたのではないかと考えられる。同様に、性差の比較においても、様々な経験に基づいて男子の方がより規範意識が曖昧になっていると解される。

#### 4. 主な参考・引用文献

- 安香宏 1990 児童における規範意識の構造 犯罪心理学研究, 第28巻, 第2号, 1-17
- 小林万洋 1998 少年鑑別所の現場から 吉村雅世 企画 戦後非行の第四のピークはくるのかー最近の少年たちの変化を考えるー (日本犯罪心理学会第36会大会ラウンドテーブルディスカッション) 犯罪心理学研究第36巻 特別号 158-163
- 久世敏雄・和田実・鄭曉齊・浅野敬子・後藤宗理・二宮克美・宮沢秀次・宗方比佐子・内山伊知郎・平石賢二・大野久 1988 現代青年の規範意識と私生活主義について 名古屋大学教育学部紀要ー教育心理学科ー, 35, 21-28
- 長谷川博一 1988 青年の問題行動傾向の構造 日本教育心理学会第30回大会発表論文集, 930
- 大城亘武 1997 中学生の規範意識ー中学生の意識と行動ー 沖縄教育臨床研究 第3巻 第1号, 57-59

付表 1. 規範意識各項目の平均評定値（群及び性別）

	中学生		高校生		主効果		交互作用
	男	女	男	女	群	性	
1 シンナーを吸う	4.83 0.51	4.79 0.65	4.73 0.63	4.78 0.56	N.S.	N.S.	N.S.
2 麻薬・覚醒剤を使用する	4.81 0.55	4.87 0.49	4.67 0.77	4.90 0.32	N.S.	P<.01	N.S.
3 タバコを吸う	4.28 1.16	4.20 0.98	3.27 1.28	3.70 1.16	P<.001	N.S.	P<.05
4 場所をわきまえずタバコを吸う	4.56 0.95	4.51 0.82	4.15 1.12	4.20 1.12	P<.001	N.S.	N.S.
5 万引きをする	4.60 0.95	4.67 0.62	4.46 0.91	4.61 0.64	N.S.	N.S.	N.S.
6 夜遊びをする	3.49 1.41	3.29 1.32	2.53 1.27	2.93 1.01	P<.001	N.S.	N.S.
7 家で酒を飲む	3.79 1.45	3.68 1.30	2.66 1.25	2.86 1.26	P<.001	N.S.	N.S.
8 居酒屋で酒を飲む	4.11 1.36	3.97 1.27	2.70 1.47	3.00 1.35	P<.001	N.S.	N.S.
9 無断外泊をする	4.00 1.29	4.03 1.14	3.36 1.16	3.77 1.05	P<.001	P<.10	N.S.
10 ピアスをする	3.45 1.59	2.64 1.49	2.06 1.25	1.55 0.88	P<.001	P<.001	N.S.
11 髪を染める	3.34 1.57	2.60 1.48	1.79 1.10	1.57 0.87	P<.001	P<.001	P<.05
12 不特定多数の人と性交渉をもつ	3.88 1.34	4.19 1.09	3.29 1.20	4.32 0.92	P<.05	P<.001	P<.01
13 恋人と性交渉をもつ	2.83 1.56	2.76 1.46	1.73 1.03	2.08 1.09	P<.001	N.S.	P<.05
14 目上の人へ敬語で話さない	3.78 1.17	3.86 0.95	3.31 1.10	3.44 0.96	P<.001	N.S.	N.S.
15 無免許でバイクに乗る	4.44 0.98	4.44 0.93	3.96 1.11	4.21 1.00	P<.01	N.S.	N.S.
16 無免許で車に乗る	4.54 0.89	4.56 0.82	4.24 0.95	4.43 0.81	P<.05	N.S.	N.S.
17 親に嘘をつく	3.41 1.26	3.46 1.15	3.21 1.05	3.31 1.11	N.S.	N.S.	N.S.
18 友達に嘘をつく	3.53 1.29	3.76 1.14	3.60 1.03	3.84 0.99	N.S.	P<.05	N.S.
19 先生・親に暴力をふるう	4.51 0.91	4.60 0.81	4.42 0.96	4.55 0.74	N.S.	N.S.	N.S.
20 友達に暴力をふるう	4.19 1.10	4.60 0.81	4.28 0.96	4.61 0.70	N.S.	P<.001	N.S.

付表 1. 規範意識各項目の平均評定値（群及び性別）

	中学生		高校生		主効果		交互作用
	男	女	男	女	群	性	
21 時間を守らない	4.07 0.89	4.21 0.96	4.01 0.95	3.97 0.84	N.S.	N.S.	N.S.
22 約束を破る	4.22 0.93	4.36 0.94	4.43 0.76	4.29 0.72	N.S.	N.S.	P<.10
23 公共の乗物や建物に落書きをする	4.35 1.02	4.19 1.06	4.11 0.89	4.29 0.82	N.S.	N.S.	P<.10
24 道につばをはく	3.64 1.30	3.95 1.15	3.09 1.22	3.99 1.07	P<.05	P<.001	P<.05
25 暴走行為をする	4.47 0.95	4.51 0.80	4.11 1.15	4.37 0.92	P<.05	N.S.	N.S.
26 タバコ・空き缶のばい捨て	4.25 1.08	4.08 1.16	4.14 1.00	4.47 0.72	N.S.	N.S.	P<.05
27 授業中におしゃべりをする	3.06 1.28	3.18 1.19	2.88 1.19	3.04 1.20	N.S.	N.S.	N.S.
28 授業中に居眠りをする	3.24 1.36	3.32 1.25	2.44 1.22	2.84 1.22	P<.001	P<.10	N.S.
29 カンニングをする	4.43 1.03	4.35 1.00	4.05 1.10	4.22 1.02	P<.05	N.S.	N.S.
30 信号を無視する	3.60 1.42	3.87 1.16	3.48 1.30	3.80 1.11	N.S.	P<.05	N.S.
31 秘密をもらす	4.17 1.08	4.33 1.11	4.38 0.91	4.35 0.87	N.S.	N.S.	N.S.
32 授業中にベルが鳴ることを気にしない （ポケベル・携帯電話）	3.97 1.25	3.85 1.24	3.39 1.36	3.45 1.19	P<.001	N.S.	N.S.
33 授業や集まりに無断欠席する	4.47 1.03	4.18 1.05	3.67 1.12	3.84 1.06	P<.001	N.S.	P<.05
34 伝統や習慣を無視する	3.72 1.30	3.68 1.09	3.36 1.08	3.24 1.04	P<.001	N.S.	N.S.
35 ボール雑誌をみる	3.10 1.57	3.35 1.49	1.81 1.14	2.38 1.20	P<.001	P<.01	N.S.
36 未婚で妊娠をする	3.71 1.41	3.28 1.40	3.20 1.23	2.92 1.29	P<.01	P<.05	N.S.
37 他人の自転車を無断で使う	4.47 1.06	4.44 0.85	4.03 1.16	4.13 0.96	P<.001	N.S.	N.S.
38 自殺をする	4.34 1.22	4.36 1.22	4.17 1.29	4.34 1.20	N.S.	N.S.	N.S.
39 憎い人命を奪う	4.51 1.12	4.72 0.87	4.37 1.16	4.66 0.78	N.S.	P<.05	N.S.

※数値下段は S D, 右 3 列は二元配置分散分析の結果を示した。

付表2. 中学生の行う問題行動に対する許容性の平均評定値(群及び性別)

	評定者				分析結果		
	中学生		高校生		主効果 群	性	交互作用
	男	女	男	女			
1 喫煙	1.61 0.90	1.71 0.90	2.04 0.94	1.67 0.82	P<.50	N.S.	N.S.
2 親や親戚との家での飲酒	1.94 1.09	2.06 1.01	2.37 1.09	2.18 1.01	P<.05	N.S.	N.S.
3 親や親戚との居酒屋での飲酒	1.73 0.99	1.87 0.97	2.27 1.07	2.21 1.03	P<.001	N.S.	N.S.
4 友人との家での飲酒	1.66 0.91	1.73 0.90	2.19 1.00	2.11 0.98	P<.001	N.S.	N.S.
5 友人との居酒屋での飲酒	1.51 0.79	1.54 0.75	1.91 0.88	1.78 0.91	P<.001	N.S.	N.S.
6 ひとりでの飲酒	1.54 0.88	1.77 0.95	2.32 1.04	2.01 1.05	P<.001	N.S.	P<.05
7 午後7時から10時までの夜遊び	2.56 1.14	2.54 1.04	2.91 0.88	2.70 0.89	P<.05	N.S.	N.S.
8 午後10時から午前0時までの夜遊び	2.16 1.55	1.92 1.01	2.25 1.02	2.02 0.99	N.S.	P<.05	N.S.
9 午前0時以降の夜遊び	1.63 1.04	1.67 0.91	1.90 1.02	1.74 0.93	P<.10	N.S.	N.S.
10 オートバイの無免許運転 (原付自転車も含む)	1.38 0.81	1.52 0.77	1.62 0.75	1.46 0.68	N.S.	N.S.	P<.10
11 自動車の無免許運転	1.28 0.62	1.31 0.59	1.37 0.73	1.50 1.86	N.S.	N.S.	N.S.
12 無断外泊	1.82 0.99	1.85 0.97	2.00 0.99	1.70 0.79	N.S.	N.S.	P<.10
13 学校をさぼって遊ぶ	1.56 0.90	1.58 0.88	1.91 0.92	1.85 0.93	P<.001	N.S.	N.S.
14 シンナーを吸うこと	1.11 0.44	1.13 0.47	1.17 0.55	1.13 0.44	N.S.	N.S.	N.S.
15 麻薬・覚醒剤の使用	1.15 0.55	1.16 0.56	1.14 0.52	1.09 0.37	N.S.	N.S.	N.S.
16 恋人との性交渉	2.26 1.18	2.20 1.13	2.61 1.13	2.23 1.07	N.S.	P<.10	N.S.
17 不特定多数の人との性交渉	1.59 1.01	1.49 0.80	1.85 0.98	1.29 0.67	N.S.	P<.001	P<.05
18 援助交際	1.41 0.85	1.29 0.67	1.63 0.92	1.24 0.60	N.S.	P<.001	N.S.
19 売春(買春)	1.56 0.97	1.19 0.56	1.43 0.87	1.16 0.48	N.S.	P<.001	N.S.

付表 2. 中学生の行う問題行動に対する許容性の平均評定値（群及び性別）

	評定者				分析結果		
	中学生		高校生		主効果 群	性	交互作用
	男	女	男	女			
20 悪口をいっていじめること	1.47 0.72	1.36 0.61	1.59 0.86	1.30 0.53	N.S.	P<.01	N.S.
21 無視していじめること	1.38 0.65	1.38 0.71	1.44 0.76	1.28 0.54	N.S.	N.S.	N.S.
22 金銭せびりをしていじめること	1.22 0.54	1.15 0.40	1.26 0.56	1.15 0.41	N.S.	P<.10	N.S.
23 暴力を振るっていじめること	1.26 0.64	1.18 0.48	1.25 0.58	1.16 0.48	N.S.	N.S.	N.S.
24 ポルノ雑誌をみること	2.34 1.24	2.23 1.20	3.24 0.98	2.68 1.01	P<.001	P<.01	P<.05
25 ポルノビデオを見ること	2.27 1.20	2.27 1.17	3.24 0.99	2.71 1.04	P<.001	P<.05	P<.05
26 ビアスをすること	2.18 1.16	2.71 1.16	2.90 1.04	3.09 1.00	P<.001	P<.01	N.S.
27 髪を染めること	2.30 1.19	2.71 1.12	3.04 1.02	3.05 1.00	P<.001	P<.10	P<.10
28 家出をすること	1.84 1.11	1.94 1.04	2.09 1.07	1.75 0.92	N.S.	N.S.	P<.05
29 ナイフを持ち歩くこと	1.53 0.97	1.40 0.81	1.45 0.84	1.24 0.60	N.S.	P<.05	N.S.

※数値下段は S D, 右 3 列は二元配置分散分析の結果を示した。

付表3. 高校生の行う問題行動に対する許容性の平均評定値(群及び性別)

	評定者				分析結果		
	中学生		高校生		主効果		交互作用
	男	女	男	女	群	性	
1 喫煙	2.03 1.09	2.28 1.08	2.63 1.06	2.33 0.99	P<.01	N.S.	P<.05
2 親や親戚との家での飲酒	2.39 1.15	2.60 1.05	3.15 0.94	3.02 0.86	P<.001	N.S.	P<.10
3 親や親戚との居酒屋での飲酒	2.22 1.20	2.40 1.06	2.98 1.00	2.95 0.96	P<.001	N.S.	N.S.
4 友人との家での飲酒	2.13 1.10	2.27 1.09	2.99 0.97	2.92 1.01	P<.001	N.S.	N.S.
5 友人との居酒屋での飲酒	2.00 1.11	2.09 1.03	2.79 0.96	2.68 1.04	P<.001	N.S.	N.S.
6 ひとりでの飲酒	2.13 1.18	2.29 1.05	2.97 0.98	2.77 1.13	P<.001	N.S.	N.S.
7 午後7時から10時までの夜遊び	3.15 1.05	3.24 0.86	3.64 0.66	3.60 0.57	P<.001	N.S.	N.S.
8 午後10時から午前0時までの夜遊び	2.79 1.17	2.75 1.08	3.13 0.95	2.99 0.96	P<.01	N.S.	N.S.
9 午前0時以降の夜遊び	2.19 1.26	2.34 1.21	2.73 1.14	2.45 1.10	P<.01	N.S.	P<.10
10 オートバイの無免許運転 (原付自転車も含む)	1.96 1.11	1.95 1.11	2.06 0.93	1.92 1.01	N.S.	N.S.	N.S.
11 自動車の無免許運転	1.69 0.95	1.71 0.98	1.70 0.86	1.65 0.86	N.S.	N.S.	N.S.
12 無断外泊	2.38 1.21	2.48 1.03	2.43 0.98	2.21 1.00	N.S.	N.S.	N.S.
13 学校をさぼって遊ぶ	1.94 1.10	2.21 1.11	2.47 1.05	2.27 1.03	P<.01	N.S.	P<.05
14 シンナーを吸うこと	1.26 0.66	1.26 0.69	1.15 0.52	1.18 0.57	N.S.	N.S.	N.S.
15 麻薬・覚醒剤の使用	1.21 0.62	1.23 0.64	1.17 0.54	1.09 0.39	N.S.	N.S.	N.S.
16 恋人との性交渉	2.74 1.28	2.82 1.18	3.34 0.85	3.01 0.98	P<.001	N.S.	P<.10
17 不特定多数の人との性交渉	1.90 1.09	1.73 1.07	2.29 1.10	1.41 0.75	N.S.	P<.001	P<.01
18 援助交際	1.65 1.03	1.58 0.95	1.88 1.06	1.38 0.76	N.S.	P<.01	P<.05
19 売春(買春)	1.71 1.04	1.40 0.81	1.61 0.95	1.22 0.61	N.S.	P<.001	N.S.

付表 3. 高校生の行う問題行動に対する許容性の平均評定値（群及び性別）

	評定者				分析結果		
	中学生		高校生		主効果	交互作用	
	男	女	男	女	群	性	
20 悪口をいっていじめること	1.54 0.84	1.43 0.75	1.55 0.85	1.29 0.52	N.S.	P<.05	N.S.
21 無視していじめること	1.46 0.78	1.41 0.67	1.45 0.80	1.45 0.48	N.S.	P<.10	N.S.
22 金銭せびりをしていじめること	1.25 0.58	1.21 0.52	1.27 0.62	1.14 0.38	N.S.	N.S.	N.S.
23 暴力を振るっていじめること	1.36 0.73	1.21 0.59	1.25 0.59	1.14 0.44	N.S.	P<.05	N.S.
24 ポルノ雑誌をみること	2.72 1.28	2.60 1.24	3.57 0.81	3.16 0.94	P<.001	P<.05	N.S.
25 ポルノビデオを見ること	2.67 1.26	2.68 1.22	3.52 0.86	3.19 0.93	P<.001	N.S.	N.S.
26 ビアスをすること	2.90 1.19	3.31 0.91	3.40 0.84	3.71 0.55	P<.001	P<.001	N.S.
27 髪を染めること	2.85 1.21	3.36 0.85	3.56 0.76	3.73 0.53	P<.001	P<.001	P<.05
28 家出をすること	2.10 1.21	2.26 1.11	2.29 1.14	2.05 1.04	N.S.	N.S.	P<.10
29 ナイフを持ち歩くこと	1.62 1.04	1.46 0.92	1.54 0.92	1.27 0.65	N.S.	P<.05	N.S.

※数値下段は S D, 右 3 列は二元配置分散分析の結果を示した。

付表 4. 規範意識と問題行動許容尺度の相関係数（全体）

		規範意識尺度							
		第 1 因子		第 2 因子		第 3 因子		第 4 因子	
中学生が行う 問題行動への 許容性尺度	第 1 因子	-0.61	**	-0.46	**	-0.65	**	-0.50	**
	第 2 因子	-0.40	**	-0.50	**	-0.57	**	-0.53	**
	第 3 因子	-0.40	**	-0.34	**	-0.41	**	-0.64	**
	第 4 因子	-0.70	**	-0.32	**	-0.49	**	-0.39	**
	第 5 因子	-6.40	**	-0.39	**	-0.55	**	-0.56	**
中学生が行う 問題行動への 許容性尺度	第 1 因子	-0.67	**	-0.48	**	-0.63	**	-0.40	**
	第 2 因子	-0.34	**	-0.47	**	-0.54	**	-0.46	**
	第 3 因子	-0.41	**	-0.43	**	-0.48	**	-0.64	**
	第 4 因子	-0.72	**	-0.29	**	-0.42	**	-0.31	**
	第 5 因子	-0.68	**	-0.40	**	-0.53	**	-0.38	**

\*\*：P<.01

付表 5. 規範意識と問題行動許容尺度の相関係数（中学生）

		規範意識尺度							
		第 1 因子		第 2 因子		第 3 因子		第 4 因子	
中学生が行う 問題行動への 許容性尺度	第 1 因子	-0.74	**	-0.60	**	-0.77	**	-0.62	**
	第 2 因子	-0.57	**	-0.62	**	-0.70	**	-0.64	**
	第 3 因子	-0.57	**	-0.42	**	-0.57	**	-0.68	**
	第 4 因子	-0.80	**	-0.50	**	-0.63	**	-0.51	**
	第 5 因子	-0.77	**	-0.55	**	-0.70	**	-0.52	**
中学生が行う 問題行動への 許容性尺度	第 1 因子	-0.70	**	-0.63	**	-0.69	**	-0.54	**
	第 2 因子	-0.53	**	-0.55	**	-0.66	**	-0.52	**
	第 3 因子	-0.57	**	-0.50	**	-0.62	**	-0.67	**
	第 4 因子	-0.75	**	-0.44	**	-0.53	**	-0.41	**
	第 5 因子	-0.71	**	-0.54	**	-0.63	**	-0.43	**

\*\*：P<.01



付表 6. 規範意識と問題行動許容尺度の相関係数（高校生）

		規範意識尺度							
		第 1 因子		第 2 因子		第 3 因子		第 4 因子	
中学生が行う 問題行動への 許容性尺度	第 1 因子	-0.56	**	-0.35	**	-0.56	**	-0.42	**
	第 2 因子	-0.37	**	-0.40	**	-0.49	**	-0.45	**
	第 3 因子	-0.36	**	-0.28	**	-0.31	**	-0.61	**
	第 4 因子	-0.55	**	-0.15	*	-0.36	**	-0.31	**
	第 5 因子	-0.55	**	-0.27	**	-0.43	**	-0.41	**
中学生が行う 問題行動への 許容性尺度	第 1 因子	-0.67	**	-0.33	**	-0.56	**	-0.29	**
	第 2 因子	-0.31	**	-0.42	**	-0.46	**	-0.43	**
	第 3 因子	-0.42	**	-0.37	**	-0.39	**	-0.63	**
	第 4 因子	-0.61	**	-0.09		-0.29	**	-0.22	**
	第 5 因子	-0.57	**	-0.26	**	-0.43	**	-0.33	**

\*\*: $P<.01$ , \*: $P<.05$

付表 7. 規範意識と問題行動許容尺度の相関係数（男子）

		規範意識尺度							
		第 1 因子		第 2 因子		第 3 因子		第 4 因子	
中学生が行う 問題行動への 許容性尺度	第 1 因子	-0.57	**	-0.52	**	-0.64	**	-0.47	**
	第 2 因子	-0.37	**	-0.53	**	-0.56	**	-0.52	**
	第 3 因子	-0.41	**	-0.36	**	-0.35	**	-0.70	**
	第 4 因子	-0.73	**	-0.35	**	-0.42	**	-0.45	**
	第 5 因子	-0.61	**	-0.36	**	-0.48	**	-0.46	**
中学生が行う 問題行動への 許容性尺度	第 1 因子	-0.69	**	-0.50	**	-0.61	**	-0.40	**
	第 2 因子	-0.33	**	-0.51	**	-0.55	**	-0.47	**
	第 3 因子	-0.44	**	-0.42	**	-0.41	**	-0.68	**
	第 4 因子	-0.76	**	-0.33	**	-0.41	**	-0.37	**
	第 5 因子	-0.64	**	-0.35	**	-0.47	**	-0.36	**

\*\*: $P<.01$ , \*: $P<.05$

付表 8. 規範意識と問題行動許容尺度の相関係数（女子）

		規範意識尺度							
		第 1 因子		第 2 因子		第 3 因子		第 4 因子	
中学生が行う 問題行動への 許容性尺度	第 1 因子	-0.65	**	-0.40	**	-0.65	**	-0.54	**
	第 2 因子	-0.43	**	-0.46	**	-0.57	**	-0.52	**
	第 3 因子	-0.40	**	-0.30	**	-0.46	**	-0.53	**
	第 4 因子	-0.67	**	-0.30	**	-0.55	**	-0.34	**
	第 5 因子	-0.67	**	-0.42	**	-0.60	**	-0.47	**
中学生が行う 問題行動への 許容性尺度	第 1 因子	-0.66	**	-0.45	**	-0.64	**	-0.41	**
	第 2 因子	-0.34	**	-0.41	**	-0.50	**	-0.41	**
	第 3 因子	-0.40	**	-0.43	**	-0.52	**	-0.57	**
	第 4 因子	-0.68	**	-0.25	**	-0.44	**	-0.27	**
	第 5 因子	-0.73	**	-0.44	**	-0.59	**	-0.42	**

\*\*:P&lt;.01, \*:P&lt;.05

付表 9. 規範意識と問題行動許容尺度の相関係数（中学生男子）

		規範意識尺度							
		第 1 因子		第 2 因子		第 3 因子		第 4 因子	
中学生が行う 問題行動への 許容性尺度	第 1 因子	-0.75	**	-0.72	**	-0.81	**	-0.60	**
	第 2 因子	-0.59	**	-0.65	**	-0.81	**	-0.71	**
	第 3 因子	-0.64	**	-0.55	**	-0.62	**	-0.73	**
	第 4 因子	-0.82	**	-0.63	**	-0.60	**	-0.56	**
	第 5 因子	-0.76	**	-0.68	**	-0.72	**	-0.49	**
中学生が行う 問題行動への 許容性尺度	第 1 因子	-0.73	**	-0.71	**	-0.69	**	-0.52	**
	第 2 因子	-0.60	**	-0.60	**	-0.78	**	-0.62	**
	第 3 因子	-0.59	**	-0.52	**	-0.63	**	-0.70	**
	第 4 因子	-0.77	**	-0.54	**	-0.51	**	-0.45	**
	第 5 因子	-0.66	**	-0.63	**	-0.60	**	-0.41	**

\*\*:P&lt;.01, \*:P&lt;.05

付表10. 規範意識と問題行動許容尺度の相関係数（中学生女子）

		規範意識尺度							
		第1因子		第2因子		第3因子		第4因子	
中学生が行う 問題行動への 許容性尺度	第1因子	-0.72	**	-0.78	**	-0.72	**	-0.67	**
	第2因子	-0.54	**	-0.59	**	-0.59	**	-0.54	**
	第3因子	-0.50	**	-0.23	**	-0.51	**	-0.61	**
	第4因子	-0.78	**	-0.40	**	-0.66	**	-0.47	**
	第5因子	-0.77	**	-0.46	**	-0.68	**	-0.60	**
中学生が行う 問題行動への 許容性尺度	第1因子	-0.70	**	-0.56	**	-0.70	**	-0.58	**
	第2因子	-0.45	**	-0.48	**	-0.52	**	-0.36	**
	第3因子	-0.55	**	-0.48	**	-0.61	**	-0.65	**
	第4因子	-0.71	**	-0.36	**	-0.55	**	-0.39	**
	第5因子	-0.76	**	-0.49	**	-0.65	**	-0.50	**

\*\*: $P<.01$ , \*: $P<.05$

付表11. 規範意識と問題行動許容尺度の相関係数（高校生男子）

		規範意識尺度							
		第1因子		第2因子		第3因子		第4因子	
中学生が行う 問題行動への 許容性尺度	第1因子	-0.40	**	-0.34	**	-0.49	**	-0.34	**
	第2因子	-0.22	**	-0.42	**	-0.39	**	-0.35	**
	第3因子	-0.25	*	-0.18		-0.13		-0.67	**
	第4因子	-0.50	**	-0.07		-0.17		-0.29	**
	第5因子	-0.39	**	-0.10		-0.25	*	-0.39	**
中学生が行う 問題行動への 許容性尺度	第1因子	-0.63	**	-0.26	*	-0.50	**	-0.22	*
	第2因子	-0.17		-0.43	**	-0.37	**	-0.35	**
	第3因子	-0.35	**	-0.31	**	-0.22	*	-0.66	**
	第4因子	-0.64	**	-0.04		-0.19		-0.21	*
	第5因子	-0.42	**	-0.07		-0.27	**	-0.24	*

\*\*: $P<.01$ , \*: $P<.05$

付表12. 規範意識と問題行動許容尺度の相関係数（高校生女子）

		規範意識尺度							
		第1因子		第2因子		第3因子		第4因子	
中学生が行う 問題行動への 許容性尺度	第1因子	-0.66	**	-0.35	**	-0.61	**	-0.47	**
	第2因子	-0.49	**	-0.36	**	-0.56	**	-0.51	**
	第3因子	-0.45	**	-0.37	**	-0.43	**	-0.48	**
	第4因子	-0.57	**	-0.19	*	-0.47	**	-0.27	**
	第5因子	-0.64	**	-0.39	**	-0.55	**	-0.41	**
中学生が行う 問題行動への 許容性尺度	第1因子	-0.68	**	-0.36	**	-0.60	**	-0.32	**
	第2因子	-0.43	**	-0.39	**	-0.52	**	-0.44	**
	第3因子	-0.46	**	-0.42	**	-0.48	**	-0.52	**
	第4因子	-0.59	**	-0.11		-0.35	**	-0.19	*
	第5因子	-0.67	**	-0.39	**	-0.55	**	-0.39	**

\*\*: $P<.01$ , \*: $P<.05$